

令和2年度

久留米市社会福祉協議会 事業報告

主な取組みと決算状況をお知らせします

1 地域福祉活動の推進支援

●「くるめ支え合うプラン」の地域展開

地域住民やボランティア、行政等が協力しながら困りごとを解決していくことをめざし、市と市社会福祉協議会が一体的に策定した「くるめ支え合うプラン」を、より多くの住民の皆様に知っていただけるよう、プランの



やさしい言葉とイラストを使ってわかりやすい版を作成

概要版、わかりやすい版、英訳版を作成し、ホームページ等を活用した周知を行いました。

また、各校区で策定されている校区福祉活動計画に反映するため、校区の団体に向けて、説明と働きかけを行いました。

●見守りや支援の対象者を広げる

校区社会福祉協議会やふれあいの会、支え合い推進会議等が行う学習会を通して、高齢者、子ども、障害者、生活困窮者など、支援を必要とする人や世帯の現状と課題を共有したり、理解を促しました。

●コミュニティ組織との新たなネットワーク化

校区コミュニティ組織に対し、支え合いの必要性について説明し、新たに7校区に支え合い推進会議が設置されました。

校区ごとに特色のある協

議がなされ、日常生活を営む上で抱える困りごとを解決することを目的に、生活支援活動団体が立ち上がった校区もあります。

●興味や関心事を軸として集う市民グループとの連携

市民活動団体と連携して事業を行い、具体的な課題解決を目指すアプローチや、「つながること」を目指すアプローチを新たに行うことができました。

●地域福祉を担う人材の育成

コロナ禍により、事業の多くは実施を見合わせ、あるいは従来と異なる形での実施となりました。新たな試みとして、ボランティアフェスティバルは、ZoomとYouTubeによるオンライン配信で開催し、福祉教育は、学校とゲストティーチャーをオンラインでつないで福祉学習会を実施しました。

2 相談・支援

●組織内の情報を支援活動に活かす

コロナの影響で収入が減った世帯に対して行う生活福祉資金貸付(特例貸付)の相談者急増に対応し、貸付窓口業務を行いました。また、借受世帯の中から、複合的な課題等がみえる世帯を対象に、借受世帯の特性を調査しました。

●継続的で柔軟な対応を行っていく

ひきこもりや生活環境に課題を抱える人など、地域で発見されたケースに対して担当コーディネーターが自宅を訪問し、状況の把握を行いました。



ライフレスキュー事業を利用して、片付けを一緒に行うなど寄り添った支援をします

また、必要に応じてライフレスキュー久留米連絡会や支援関係機関等と情報共有し、寄り添った支援に努めました。

●地域へのきめ細やかな働きかけ

支え合い推進会議や校区社協役員会、ふれあいの会班長会、地区民生委員児童委員協議会などの会議等に参加し、情報共有や課題解決に向けての支援などを行いました。

●要支援者の情報を速やかに把握する

コロナ禍でも、地域の見守りや訪問活動を継続し、身近な地域でお互いに気づき合い、支え合える関係づくりを促しました。また、新たに2校区で見守り訪問活動が始まりました。

そこから地域や個別の世帯等の困りごとや課題の把握に努めました。